



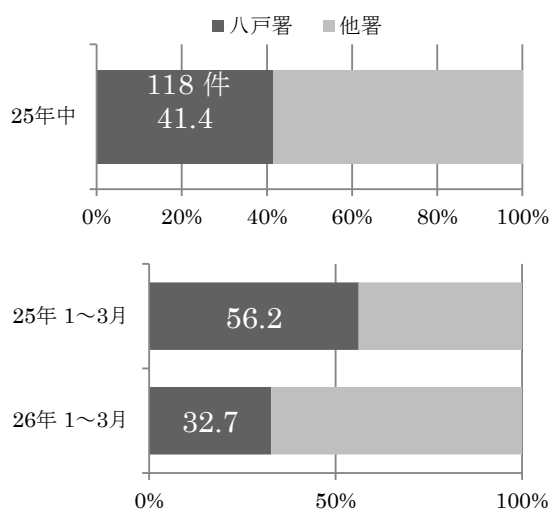
規範意識を高めましょう

右のグラフは、青森県内と八戸市の少年による万引きの発生件数を表したものです。

青森県全体では24年中418件が、25年中には285件と大きく減少したにもかかわらず、八戸警察署管内の発生件数は24年中111件が25年中118件と7件増え、県全体の約4割を占める深刻な状況になっています。このような状況を踏まえて、警察をはじめ、地域の諸団体、教育委員会では少年非行防止のために様々な取組を行っています。各学校では中学校・高等学校に結成されたJUMPチーム、小学校に結成されたリトルJUMPチームを中心に「万引きしま宣言」を呼びかけるなど「万引き防止」に取り組んでいます。その効果もあり、1～3月の万引き件数は昨年同時期の件数に比べ減少しました。しかし、県内では依然ワースト1の状態です。子どもたちの規範意識の希薄さが課題となっています。

また、今年交通事故の発生件数も多く、特に小学生の自転車事故が多く発生しております。交通ルールを守らなければいけないという規範意識が欠けていることが原因の一つとして挙げられます。八戸市を、非行のない安全・安心な街にするためにも規範意識の高揚は重要な課題です。家庭・学校・地域社会が協力して、子どもたちの規範意識を高めていきましょう。

万引き少年数 県全体と八戸署との比較



規範意識を高めるためのポイント

- ・あいさつ、返事、言葉づかいをしっかりと行い、相手の立場を考えて礼儀正しく人と接していきましょう。
- ・自分で起き、朝ご飯をしっかりと食べ、登校時刻や帰宅時刻を守りましょう。
- ・はき物をそろえるなど、自分のものは自分で整理整頓しましょう。
- ・家の手伝いや奉仕活動に積極的に取り組みましょう。
- ・将来の夢を、家の人や友達と語り合しましょう。



一瞬一生

八戸市教育委員会 教育長 伊藤 博 章

【随想】

1 ひたむきな姿

前日までの梅雨空が嘘のように晴れ渡った。市内 27 校 6800 余名の中学生のエネルギーが結集した市中体夏季大会開会式。スタンドには各校色とりどりの応援旗が風にはためき、声を限りのエールがこだまのように響き渡る。吹奏楽隊の演奏や合唱隊の歌声の中、総勢 3360 名の選手団が行進していく。ああやっぱり中学生だ、良き友に久々に再会したような懐かしさがこみ上げてくる。悩み多き思春期のまっただなか、一瞬一瞬に全力で向き合っている。「燃え上がれ 輝く一瞬を 一生の感動に」のスローガンそのままの姿に心を熱くする。応援スタンドに詰めかけた大勢の保護者や地域の方々、我が子の晴れ姿や地域の子どもたちの活躍を見届けたい、そんな熱気が伝わってくる。翌週、同じ競技場で観た小学生のスポーツ少年大会開会式でも同じ感慨にひたった。目の前の事に一途に取り組む子どもたちのひたむきな姿に心打たれる。



2 過程こそ教育

翌日の新聞には各競技の勝敗が報じられていた。感激の開会式のあとには冷酷な現実が待っている。紙面からは子どもたちの歓喜の声と共に落胆の声も聞こえてきそう。一生懸命頑張った、だが現実は厳しい。努力がいつも実を結ぶとはかぎらない。しかし、いつときの挫折感や悔し涙はきっと人を成長させる。一流のアスリートがたとえ敗れても次なるステージに向け力強く夢や希望を語る姿に、わたしたちは幾度も心を熱くさせられた。

作家 井上 靖は随筆「わが一期一会」のなかで、「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」と述べている。確かに結果は大事だが、そこに至るまでの過程の中にこそ教育がある。スポーツは技術の習得はもちろん、挨拶や礼儀など人としてのあり方を子どもたちに教えてくれる。かつて、全校生に口癖のように「勝っておごらず 負けてくさらず」と説いた。成長・発達途上にある子どもたちが勝負の厳しさを、身をもって知ることは、これからの人生を生き抜く大きな力となると信じている。

3 努力を惜しむな

効率性重視の風潮に流され、わたしたち大人は「待つこと」をどこかへ置き去りにしてきた。性急に結果を求めたがる現代人にとって、目に見える目覚ましい成果が得られないとき、つい「地道に努力すること」が無意味で無駄なことのよう思われがちだ。しかし、努力は継続し続けてこそ本物になっていく。

2020 年には東京オリンピックが開催される。前回の東京オリンピックから数えて、実に 56 年ぶり。6 年後、その夢の舞台に立つ人が、ここ八戸から現れるかもしれない。どんな夢も希望も一朝一夕には手に入らない。スポーツであれ勉強であれ、小さなことを積み重ねることが大事だ。教育という営みに手間ひまを惜しんではならない。